



# 2026年3月期 決算説明会資料

データセクション株式会社

2026年5月18日

証券コード：3905



1. 2026年3月期 実績
2. 2026年3月期 計画・実績差
3. 2027年3月期 計画
4. 新株予約権の発行及び行使状況
5. Appendix

# 1. 2026年3月期 実績

- ・ AIインフラ事業※のサービス提供が本格化し、下表のとおり、大幅増収、各段階利益もいずれも大幅黒字化
  - ・ 4Q単体ベースで売上高176.7億円、営業利益38.7億円、調整後EBITDA35.0億円、経常利益40.9億円、親会社純利益33.6億円計上
- ※ 2026年3月期3Q決算よりAIデータセンター事業より名称変更

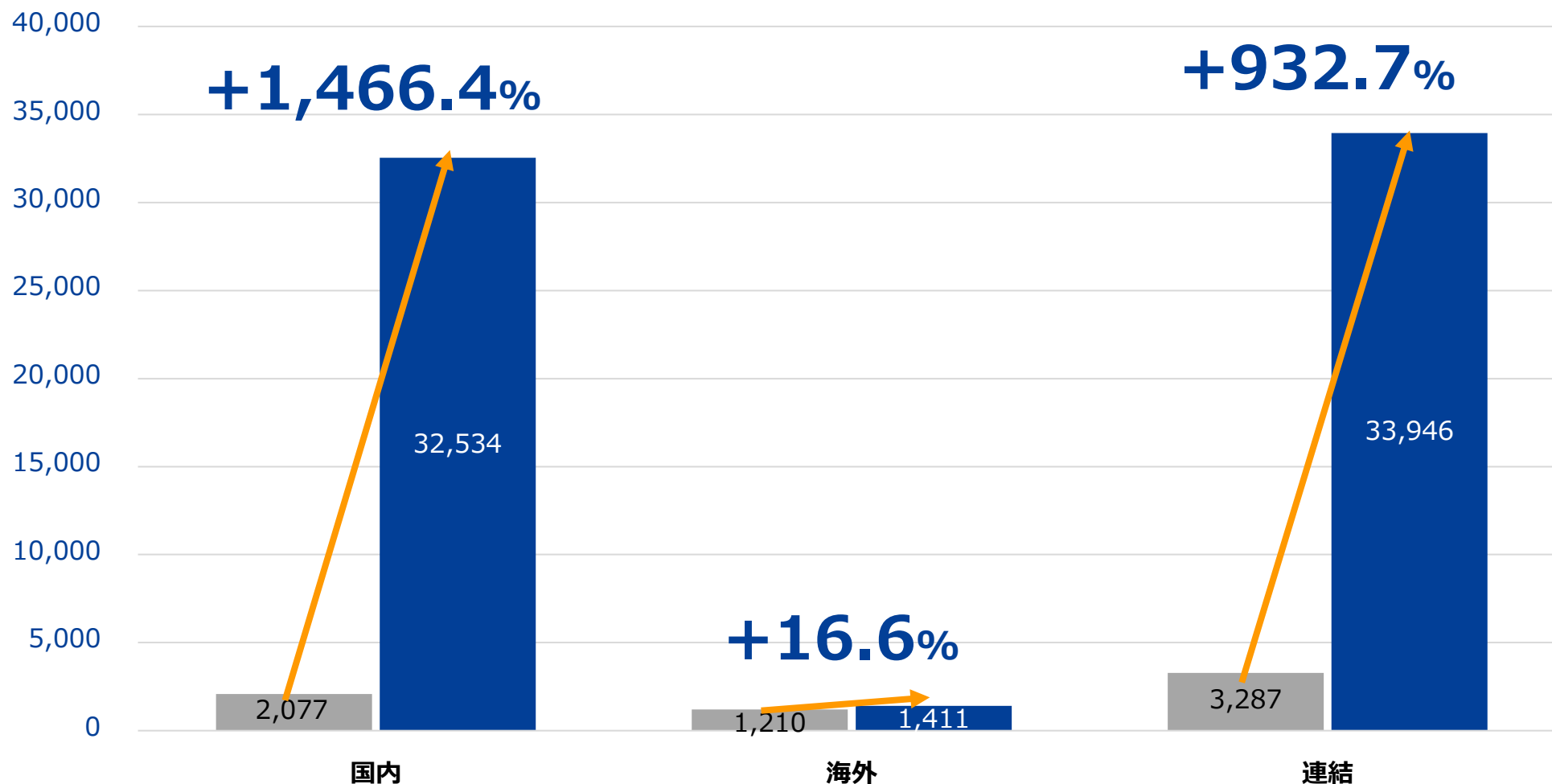
(百万円)	26年3月期 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	33,605	2,942	+30,662
営業利益	3,544	▲496	+4,040
調整後 EBITDA*	4,205	▲169	+4,375
経常利益	3,627	▲613	+4,240
親会社純利益	2,801	▲654	+3,455

(\*) 調整後EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A関連費用

- 国内はAIインフラ事業のサービス提供が本格化し大幅成長※
- ※ AIインフラ事業関連の収支は全て国内で計上
- 海外も着実な成長

(単位：百万円)

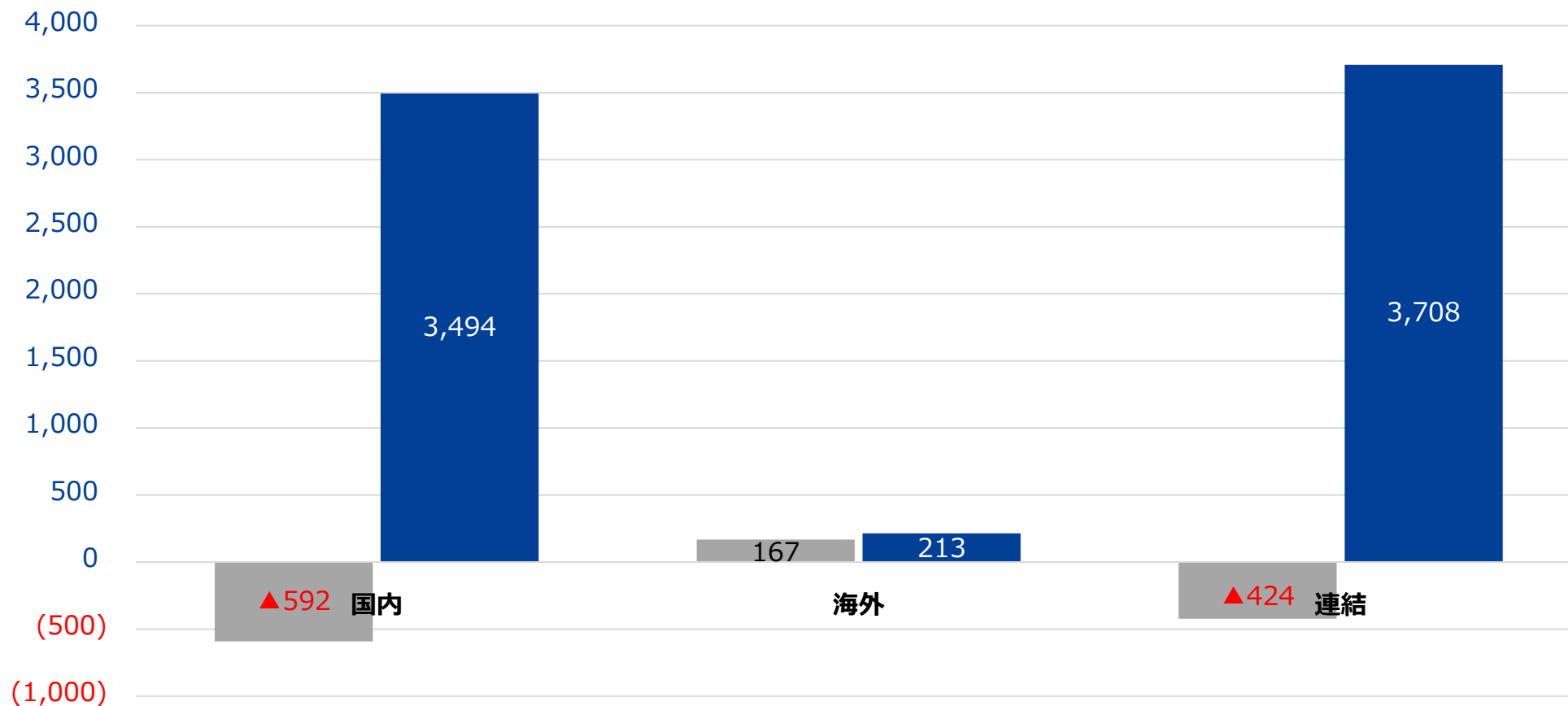
■ 25年3月期 ■ 26年3月期



- ・ AIインフラ事業のサービス提供の本格化し、3Qの▲202百万円から大幅改善、黒字化
- ・ 海外は、過年度のソフトウェア開発の償却負担があるものの増益
- ・ 連結も大幅改善、大幅黒字化

(単位：百万円)

■ 25年3月期 ■ 26年3月期



- 実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、3Qで黒字化、年度ベースでは42.0億円と大幅黒字化

※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

### <26年3月期 実績>

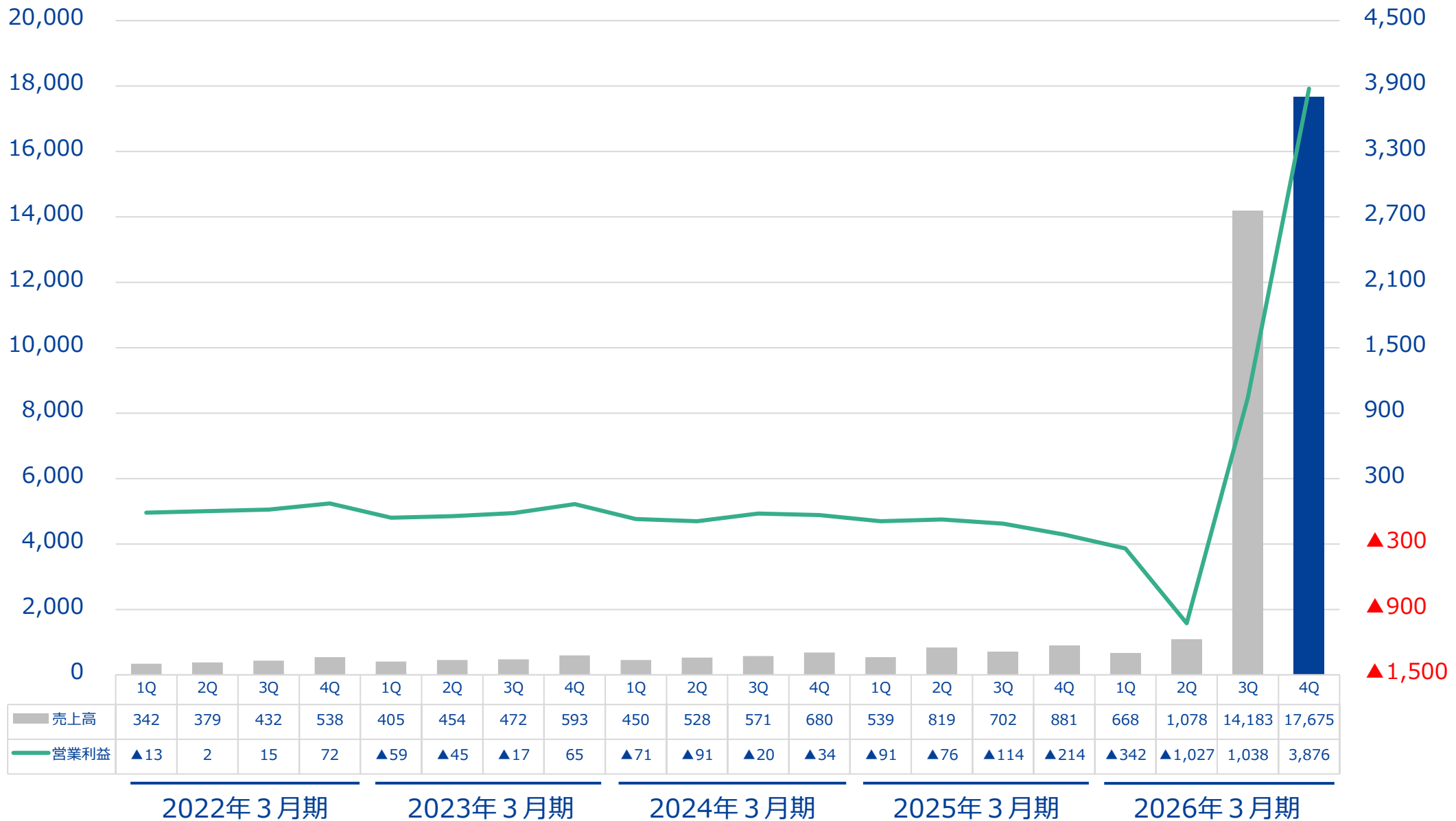
(単位：百万円)



# 四半期毎売上高・営業利益推移（連結）

1. 2026年3月期 実績

(単位：百万円)



## ・第23回新株予約権の行使などにより、資本金及び資本剰余金を中心に大きく増加

（単位：百万円）

－主要な増減要因－

○流動資産：+13,851

・売掛金：+10,571

・立替金：+2,378

○固定資産：+10,131

・建設仮勘定：+4,497

・敷金：+3,180

○負債その他：+7,767

・未払金：+1,578

・預り金：+5,215

○自己資本：+16,217

・資本金：+6,573

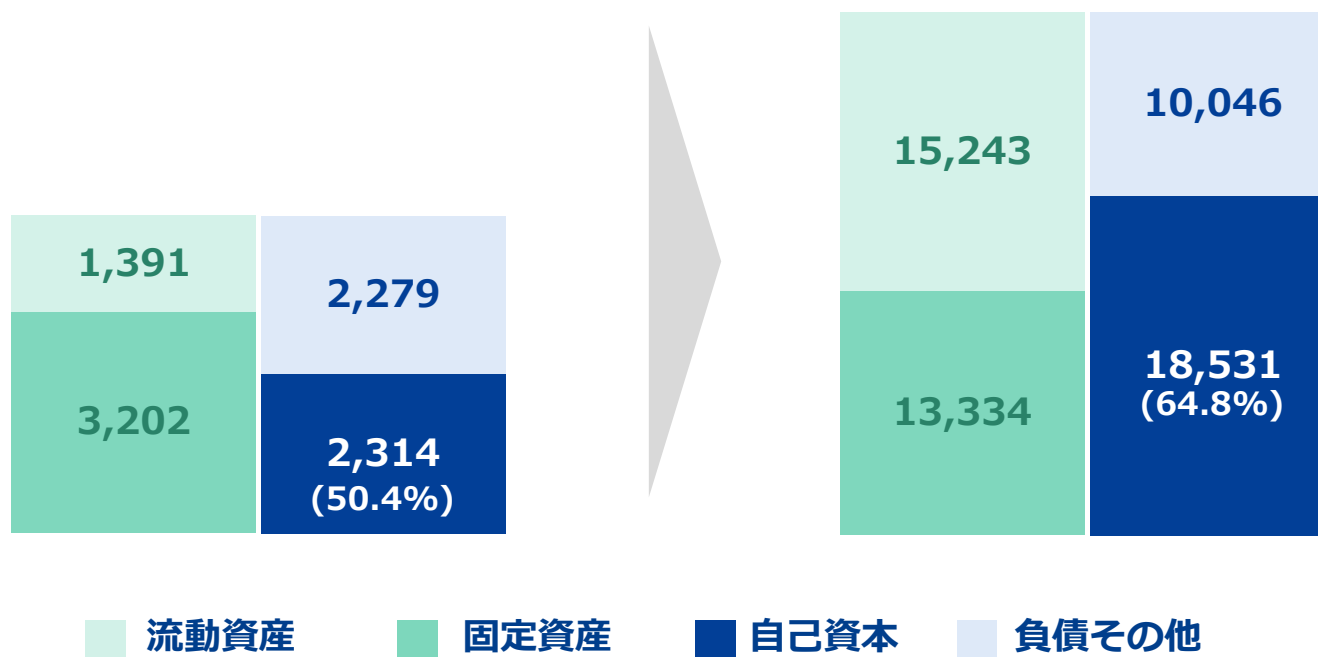
・資本剰余金：+6,571

2025年3月期 期末  
(2025年3月31日)

総資産 4,593

2026年3月期  
(2026年3月31日)

総資産 28,577



- 世界的にGPUへの需要が高まる環境下において、GPU獲得競争は一段と激化している。一方で、日本企業は、GPU獲得競争において後れを取り、国内AIインフラ構築は、未だ期待された成果を見せていない
- 当社は、日本企業として唯一、大規模AIクラスターの構築を進めており、GPUの大量確保、電力供給の確保、顧客の確保をグローバルで進めている
- 当社は、いわゆる“ネオ・クラウド”企業として、アジア・パシフィックにおいて圧倒的な地位をすでに確立。着実にプロジェクトのエクセキューションを進める
- 今期及び来期内のプロジェクト・パイプラインとして、B200/300及びGB200/300の導入を進めるが、AIインフラを構成する様々な要因から、大規模クラスターの構築を実現できる日本企業は現在当社を含め限定的（サプライヤーとのパートナーシップ戦略により、GPU調達力は、国内企業としては圧倒的）
- 大規模クラスターの運用を可能とする「TAIZA」が、業界での優位性を更にけん引。「TAIZA」はグローバル顧客によるテストを経て、高い評価を受けている

特殊な地政学的環境下において、日本で世界規模のAIインフラを構築することで、デジタル赤字を改善し、あらゆるセクターでの経済成長を後押しする

- ・ 2025年9月よりAIインフラ事業の売上計上を開始（9月途中からGPUクラスターを順次追加し、9月は約3億2千万円の売上を計上）
- ・ GPUの運用が本格的に開始され、2025年10月より単月でAIインフラ事業において約45億円の売上を計上
- ・ 段階的にGPUの運用数は順次増加。2026年5月18日時点で20,000個以上達成
- ・ 顧客からの需要を受け、国内外で電力供給確保を加速（DCサイト契約を締結）
- ・ 今後、B200に加え、B300、GB200/300の大規模導入を進め、AIスーパークラスターの構築を目指す（以下、2026年のプロジェクト）  
以下、プロジェクトA及びBは受注済み案件、プロジェクトC以降は見込案件

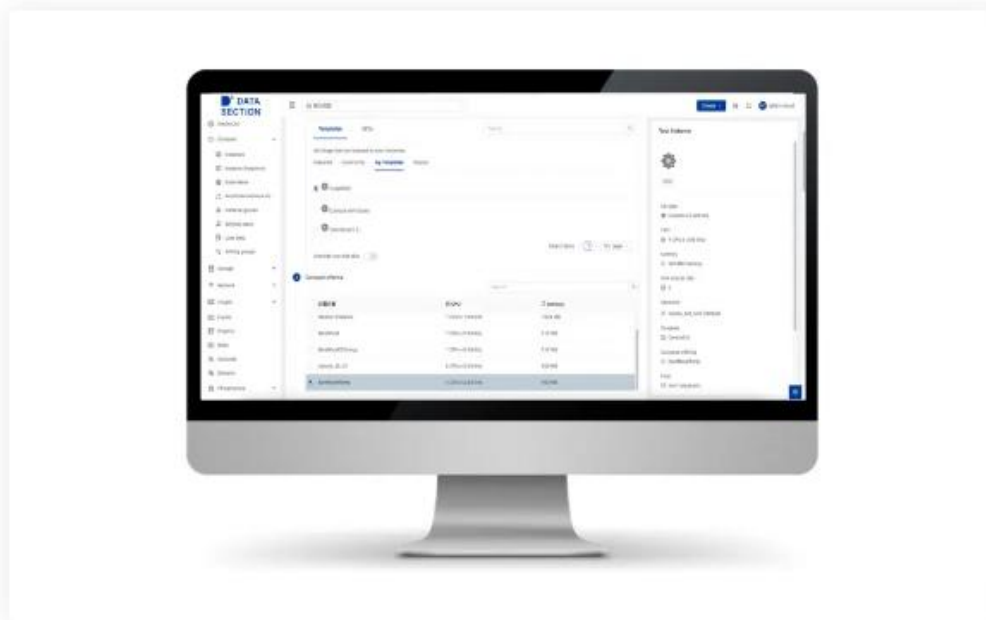
- プロジェクトA： B300 5,000個、日本
- プロジェクトB： B300 10,000個、オーストラリア（30,000個まで段階的に拡大）
- プロジェクトC： B200 5,000個、タイ
- プロジェクトD： GB200/300 70,000個（1,000ラック規模）
- プロジェクトE： GB200/300 100,000個（1,500ラック規模）
- プロジェクトF： B300 30,000個、場所は調整中
- プロジェクトG： B200 5,000個、日本
- プロジェクトH： B200 5,000個、日本
- プロジェクトI： B300 70,000個、UAE
- 他

- 2026年5月18日時点でTAIZAが運用するGPUは20,180個
- プロジェクト進捗に応じて順次増加

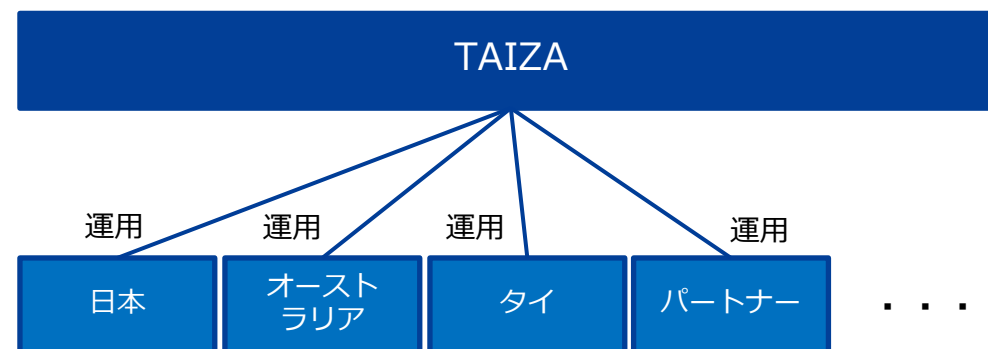
TAIZAが運用するGPU

**20,180 GPU**

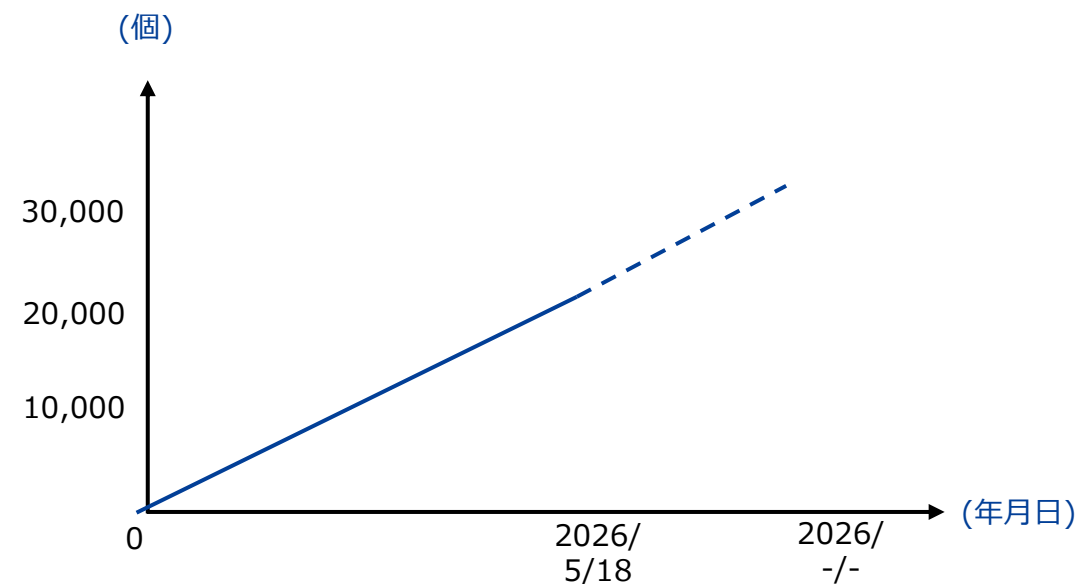
(2026年5月18日現在)



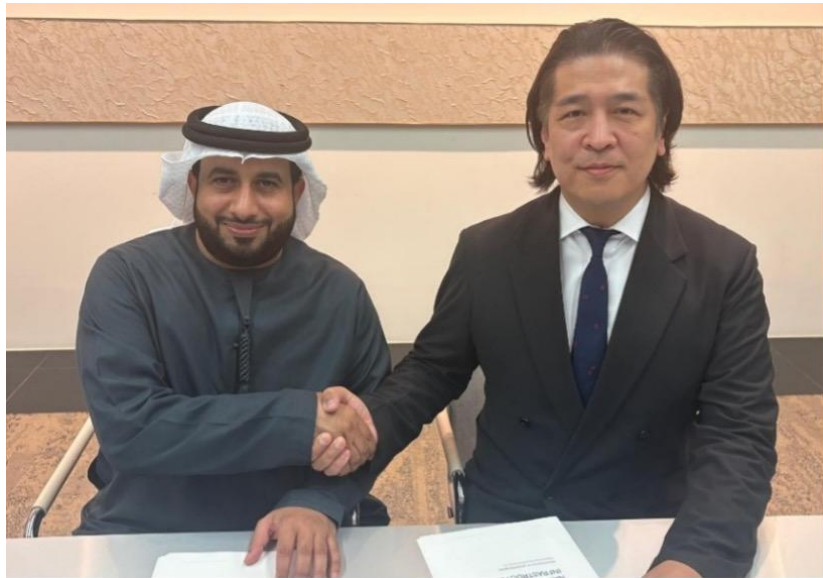
データセクションクラウドスタック「TAIZA」が現在、運用しているGPUの数を表示しています。運用数に応じて、定期的に更新します。



## TAIZA運用GPU数推移



- アラブ首長国連邦 (UAE) ドバイのナショナル・アクセラレーター企業 National Pulse Group (以下「National Pulse」) との間で覚書の締結
- UAE及びその他中東・北アフリカ (MENA) 地域における国家レベルでのAIインフラ・プラットフォーム構築、AIサービスの開発・展開等に向けた共同プロジェクトを検討



- UAEにおける大規模GPUクラスターを中核としたAIデータセンター構築の検討  
(想定電力規模：150～180MW級)
- 「TAIZA」を活用したGPUaaS及びAIプラットフォーム提供モデルの確立
- 政府機関、研究機関、公共サービス及び民間企業向けAI基盤の提供
- スマートシティ、コンピュータビジョン、ヘルステック、デジタルコマース、物流等の基幹産業へのAI実装
- MENA地域へのAIインフラ及びDIaaS (Digital Infrastructure as a Service) の広域展開



ناشونال باليس  
National Pulse



- ・ 2026年3月3日（火）、慶應義塾大学の三田キャンパス北別館にて、「Keio STAR」との連携による新拠点「DSAI STAR Labo（ディーエスエーアイ・スター・ラボ）」の設立記念セレモニーを開催



- ・ AIガバナンス、エネルギー効率化、セキュリティ設計、公共政策との接続などを重点研究領域とし、研究成果の社会実装までを見据えた実証型プロジェクトを展開
- ・ データセクションの大規模GPUインフラを基盤とするAI実装環境と、慶應義塾大学の研究知見を融合し、技術・制度・持続可能性を横断する統合的な研究を推進

- ・ AIインフラ事業のグローバル展開を強化・拡大するため、生成AI企業Stability AIの初期メンバーであるScott Trowbridge氏をChief Business Officer (CBO) に任命
- ・ 生成AIの普及に伴いAIインフラ需要が急拡大するなか、同氏の知見とグローバルネットワークの活用により、AI企業や研究機関とのパートナーシップを拡大し、AIインフラ事業の基盤強化とグローバル展開を加速



“グローバルなAI産業がこれほどエキサイティングな局面を迎えているなかで、データセクションの経営に参画することを大変嬉しく思います。

AIの普及ペースは驚異的で、既に組織の4分の3以上がAIを活用しており、市場規模は現在の数千億ドルから今後10年で1兆ドルを大きく超えると予測されています。

AIインフラ、GPUコンピューティング、次世代データセンターへの需要が世界中で加速している様子を私は直接目にしてきました。

データセクションはこの新たなAI経済を支える上でユニークなポジションにあり、このチームと共に事業を拡大し、次世代AIを構築する顧客を支援できることを楽しみにしています。”

- 2026年4月23日から25日にかけてタイ・バンコクで開催された国際シンポジウム「STS forum Japan-Thailand Symposium 2026」に参加
- 「The Role of Artificial Intelligence in Modern Society（現代社会における人工知能の役割）」と題したパネルディスカッションにパネリストとして登壇



◆登壇パネリスト：

- ファハド・アルグネアール博士（Dr. Fahad Algneaar）：サウジアラビア キング・アブドゥルアズィーズ 科学技術都市（KACST） 国際協力担当ゼネラルマネージャー
- 鈴木 賢治 教授（Professor Kenji Suzuki）：東京科学大学（Institute of Science Tokyo） 総合研究院 バイオメディカルAI研究ユニット（BMAI） ユニットリーダー
- スンタリー・ソンサーム博士（Dr. Soontaree Songserm）：タイ ビッグデータ研究所（BDI／公的機関） シニア・エグゼクティブ・バイスプレジデント
- 平岡 悠 氏（Dr. Yu Hiraoka, MD）：株式会社GramEye 代表取締役／大阪大学大学院医学系研究科／医師
- 石原 紀彦 氏（Mr. Norihiko Ishihara）：データセクション株式会社 代表取締役社長執行役員CEO

- 千葉県印西市に開設予定のAIデータセンターに導入のため、Compal Electronics, Inc. (本社: 台湾台北市、代表者: Chairman, Jui-Tsung Chen、以下「Compal社」) との間で、NVIDIA製B300 (5,080個) 搭載のGPUサーバー (635台) 一式の取得にかかる売買契約締結

- 国内第1号となるAIデータセンターに導入するため、Compal社から、NVIDIA製B300 (5,080個) を搭載したGPUサーバー (635台) 一式を取得
- 今後、Compal社とも緊密に連携し、本AIデータセンターの早期稼働を目指す
- 取得資産の内容

(1) 資産の名称	GPUサーバー 一式
(2) 取得金額	325百万USドル (注)

(注) 1米ドルを2026年4月末の終値156.57円にて円換算した金額は50,935百万円

- ・ NVIDIAの最新アーキテクチャを採用した「NVIDIA B300」搭載GPUサーバー635台一式を取得し、世界最大級のODM（設計・製造受託）企業のCompal社との連携を強化
- ・ 今回の投資総額は約325百万USドル（約50,935百万円\*）となり、次世代AIデータセンタープロジェクトの中核インフラとして、世界最大規模のクラウドサービスプロバイダーのニーズに応える圧倒的な計算能力を実現

Compal社との連携強化は、単なる機材調達を超えた、以下の極めて重要な戦略的価値をもたらす

- ・ 「入手困難な最新GPU」の安定確保  
納期遅延のリスクを最小限に抑え、AIデータセンターの早期稼働を確実に
- ・ 世界最高水準のサーバー設計・技術支援  
最新GPUのパフォーマンスを最大限に引き出す、高効率な次世代AI計算基盤の構築を実現
- ・ グローバル市場における「信頼の証」  
世界トップクラスのメーカーであるCompal社との強固な連携は、当社のAIインフラ事業が「グローバルスタンダードの品質と供給体制」を備えていることの証明

(\*）1米ドルを2026年4月末の終値156.57円にて円換算した金額は50,935百万円

- ・運用資産1,000億USDのグローバル投資会社（以下「本件相手先」）との間で、GPUサーバー取得資金の調達に関する独占的アレンジメント契約（以下「本契約」）を締結
- ・本件相手先\*を独占的な主幹事兼アレンジャーとして選任し、総額5億米ドルから10億米ドル規模の資金調達を目指す

#### ◆対象プロジェクト概要

- （1）日本（千葉県印西市）：約5,000個のGPU及び約10MWのデータセンター容量
  - （2）タイ（バンコク）：約5,000個のGPU及び約10MWのデータセンター容量
  - （3）オーストラリア（シドニー）：約10,000個のGPU及び約20MWのデータセンター容量
- 合計で約20,000個のGPU及び約40MWのデータセンター容量を想定

#### ◆契約概要

- ・本契約に基づき、本件相手先は当社の資金調達に向け最善を尽くす
- ・本契約は当社への資金提供を確約するものではなく、各種条件の充足を前提
- ・本契約の締結日から6か月間、本件と同種の資金調達につき、本件相手先に独占的な交渉権を付与

(\*）現時点では守秘義務に基づき、本件相手先の名称を非開示。なお、本件相手先との資本関係・人的関係・取引関係はなく、関連当事者には非該当

## 2. 2026年3月期 計画・実績差

- 売上高：下方修正**
  - 国内及びオーストラリアの第1号データセンター案件につき、いずれもFit-Out工事は概ね完了しているものの、資材・設備の納入の遅れにより、稼働開始予定時期変更
  - 旺盛な利用ニーズを受けて、同顧客への追加サービス提供量が想定を大幅に上回る
- 営業利益、経常利益：上方修正**
  - 上記売上高の増減により売上総利益が668百万円減少
  - 第22回新株予約券（有償ストックオプション）の全部取得（無償取得）及び消却により、2026年3月期の販管費計上予定の株式報酬費用818百万円が非計上
  - 借入残高の想定額減少による支払利息の減少
- 調整後EBITDA：下方修正**
  - 国内及びオーストラリアの第1号案件の減価償却見込み2,304百万円、株式報酬費用818百万円の非計上
- 親会社株主に帰属する当期純利益：上方修正**
  - 経常利益の上方修正に加え、税務上加算調整の株式報酬費用の非計上により、課税所得の見込額が減少

(百万円)	修正 今期業績予想	2026年1月6日付今期業績予想			前期（2025年3月期）実績		
		金額	差分 (金額)	差分 (増減率)	金額	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	<b>33,601</b>	37,273	▲3,672	▲9.9%	2,942	+30,658	+1,041.9%
営業利益	<b>3,635</b>	3,498	+137	+3.9%	▲496	+4,131	-
調整後EBITDA*	<b>4,252</b>	7,239	▲2,986	▲41.3%	▲169	+4,421	-
経常利益	<b>3,457</b>	2,972	+485	+16.3%	▲613	+4,070	-
親会社純利益	<b>2,804</b>	1,908	+896	+47.0%	▲654	+3,458	-
1株当たり純利益(円)	<b>115.57</b>	59.34	-	-	▲37.40	-	-

(\* ) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

## ・ 概ね2026年4月16日付修正の2026年3月期業績予想の数値どおりの着地

(百万円)	26年3月期 実績	26年3月期業績予想 (2026年4月16日修正)	実績の差分	
			金額	増減率
売上高	33,605	33,601	+4	+0.01%
営業利益	3,544	3,635	▲91	▲2.50%
調整後EBITDA	4,205	4,252	▲47	▲1.11%
経常利益	3,627	3,457	+170	+4.92%
親会社純利益	2,801	2,804	▲3	▲0.11%

## 3. 2027年3月期 計画

- ・ 前期のAIインフラ事業のサービス提供の本格化から、更なる成長の加速フェーズに
- ・ 国内及びオーストラリア（以下、「豪」）の第1号データセンター案件に加えて、タイの第1号データセンター案件の収益の顕在化により、業績予想数値は次のとおり

- ・ 売上高： 1,621億円
- ・ 営業利益： 248億円
- ・ 調整後EBITDA： 581億円

※本予想には国内第一号案件と同顧客への追加サービス提供分と、前述及び後述のプロジェクトA~C及びBの拡張分一部のみを含み、M&Aなどによる収益は含まず。また、AIインフラ事業のその他パイプラインについても合理的な数値の算出が可能となった段階で都度、業績予想を追加修正

(百万円)	26年3月期 実績	27年3月期業績予想		
		金額	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	33,605	<b>162,193</b>	+128,588	+382.6%
営業利益	3,544	<b>24,815</b>	+21,270	+600.1%
調整後EBITDA	4,205	<b>58,191</b>	+53,985	+1,283.6%
経常利益	3,627	<b>12,542</b>	+8,915	+245.8%
親会社純利益	2,801	<b>8,704</b>	+5,902	+210.7%

(\*) 調整後EBITDA：営業利益+減価償却費+無形固定資産償却費+株式報酬費用+M&A関連費用

- AIデータセンターの案件パイプラインは、本年度内に立ち上げ予定の複数案件が進んでいるが、本業績予想数値には、次の4案件を含む
  - 日本国内：NVIDIA社製のB300を5,000個（サーバー625台）
  - 豪：NVIDIA社製のB300を10,000個（サーバー1,250台）※年度内に20,000個へ拡張
  - 同顧客への追加サービス提供分
  - タイ：NVIDIA社製のB200を5,000個（サーバー625台）

(百万円)	計画	補足説明
売上高	162,193	■国内・豪・タイの第1号データセンター案件の年度内稼働開始 ・2026年8月から2026年3月までの8か月間の売上高 78,861百万円 ※豪案件は2027年1月より2倍の40MWへ拡張想定  ■その他、同顧客への追加サービス提供分 ・売上高 79,864百万円
営業利益	24,815	
調整後EBITDA	58,191	

※本予想には国内第一号案件と同顧客への追加サービス提供分と、前述及び後述のプロジェクトA~C及びBの拡張分一部のみを含み、M&Aなどによる収益は含まず。また、AIインフラ事業のその他パイプラインについても合理的な数値の算出が可能となった段階で都度、業績予想を追加修正

- ・ 2025年9月よりAIインフラ事業の売上計上を開始（9月途中からGPUクラスターを順次追加し、9月は約3億2千万円の売上を計上）
- ・ GPUの運用が本格的に開始され、2025年10月より単月でAIインフラ事業において約45億円の売上を計上
- ・ 段階的にGPUの運用数は順次増加。2026年5月18日時点で20,000個以上達成
- ・ 顧客からの需要を受け、国内外で電力供給確保を加速（DCサイト契約を締結）
- ・ 今後、B200に加え、B300、GB200/300の大規模導入を進め、AIスーパークラスターの構築を目指す（以下、2026年のプロジェクト）  
以下、プロジェクトA及びBは受注済み案件、プロジェクトC以降は見込案件

- プロジェクトA： B300 5,000個、日本
- プロジェクトB： B300 10,000個、オーストラリア（30,000個まで段階的に拡大）
- プロジェクトC： B200 5,000個、タイ
- プロジェクトD： GB200/300 70,000個（1,000ラック規模）
- プロジェクトE： GB200/300 100,000個（1,500ラック規模）
- プロジェクトF： B300 30,000個、場所は調整中
- プロジェクトG： B200 5,000個、日本
- プロジェクトH： B200 5,000個、日本
- プロジェクトI： B300 70,000個、UAE
- 他

## 4. 新株予約権の発行及び行使状況

- 第23回新株予約権（行使価額固定型）（以下、「本新株予約権」）の発行
- 2025年10月17日開催の臨時株主総会にて本新株予約権の発行が承認可決され、同日に払込完了

## 第23回新株予約権（行使価額固定型）

割当予定先	First Plus Financial Holdings Pte. Ltd. (以下「FPF社」)
割当日	2025年10月17日
発行価額	総額809,600,000円（本新株予約権1個につき1,840円）
当該発行による潜在株式数	44,000,000株（本新株予約権1個につき100株）
希薄化率*	199.07%
行使価額**	1,250円
調達資金の額	55,809,600,000円 (内訳) 本新株予約権発行による調達額：809,600,000円 本新株予約権行使による調達額：55,000,000,000円
出資の目的とする財産の内容及び価格	本新株予約権行使に際して出資される財産： ・金銭、または、 ・2025年8月4日付極度方式基本契約（極度額35,000,000米ドル）に基づき、FPF社が当社に対して有する貸金元本債権及び当該貸金元本債権に係る利息債権の合計額
権利行使期間	2025年10月20日から2026年10月19日まで
資金使途	AIデータセンター事業における設備投資資金及び運転資金等
発行の前提条件	2025年10月17日開催予定の当社臨時株主総会において、 (1) 発行可能株式総数の増加に係る定款変更に関する議案が承認されること、 (2) 本新株予約権の発行に関する議案が特別決議により承認されること
その他	・割当予定先が当社取締役会の事前承認を得て本新株予約権を譲渡する場合、譲受人が割当予定先としての権利義務の一切を承継 ・割当予定先の当社普通株式の所有割合が当社の発行済株式総数の33%を超える場合、当社の事前承諾を要する ・本新株予約権の累計行使数が220,000個を超える場合、第1号AIデータセンター案件と同種のAIデータセンタープロジェクトに係る顧客との利用契約又はGPUサーバーの購入契約を締結し、当該事実を東京証券取引所のTdnetを通じて適時開示するまでは、当社の事前承諾を要する

\* 2025年8月29日現在の当社の普通株式の発行済み株式総数22,103,051株に対して199.07%（総議決権数（219,674個）に対する割合200.30%。小数点以下第3位を四捨五入）

\*\* 発行決議日前取引日の終値（2,666円）の53.11%ディスカウント

## ・ 第23回新株予約権（行使価額固定型）の公表済み行使状況まとめ

### 第23回新株予約権（行使価額固定型）

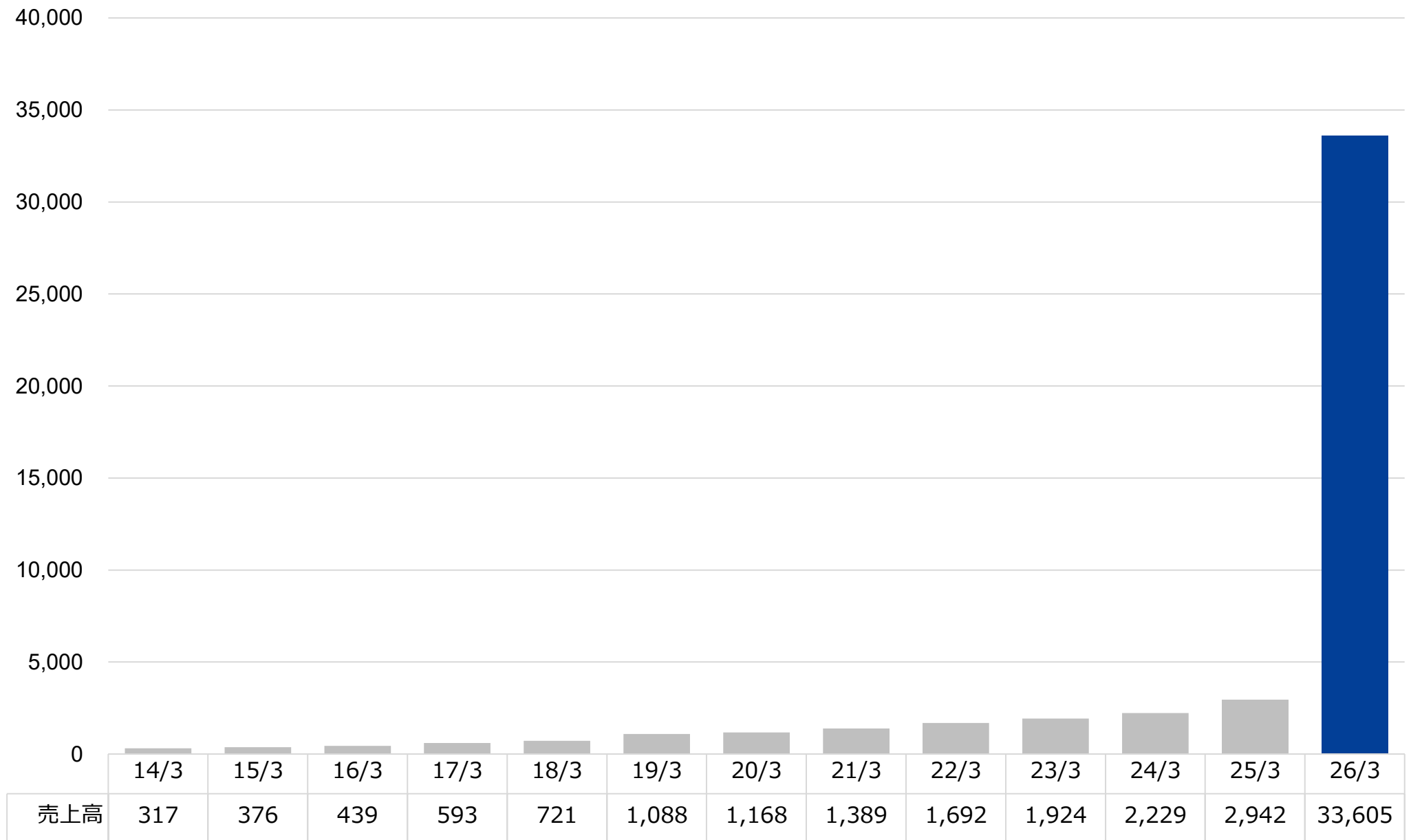
- ・ 2026年4月20日付：一部行使
- ・ 一部2,140,000株（発行総数割合4.86%）行使、2,714,376,000円の払込金額

※2026年5月18日現在

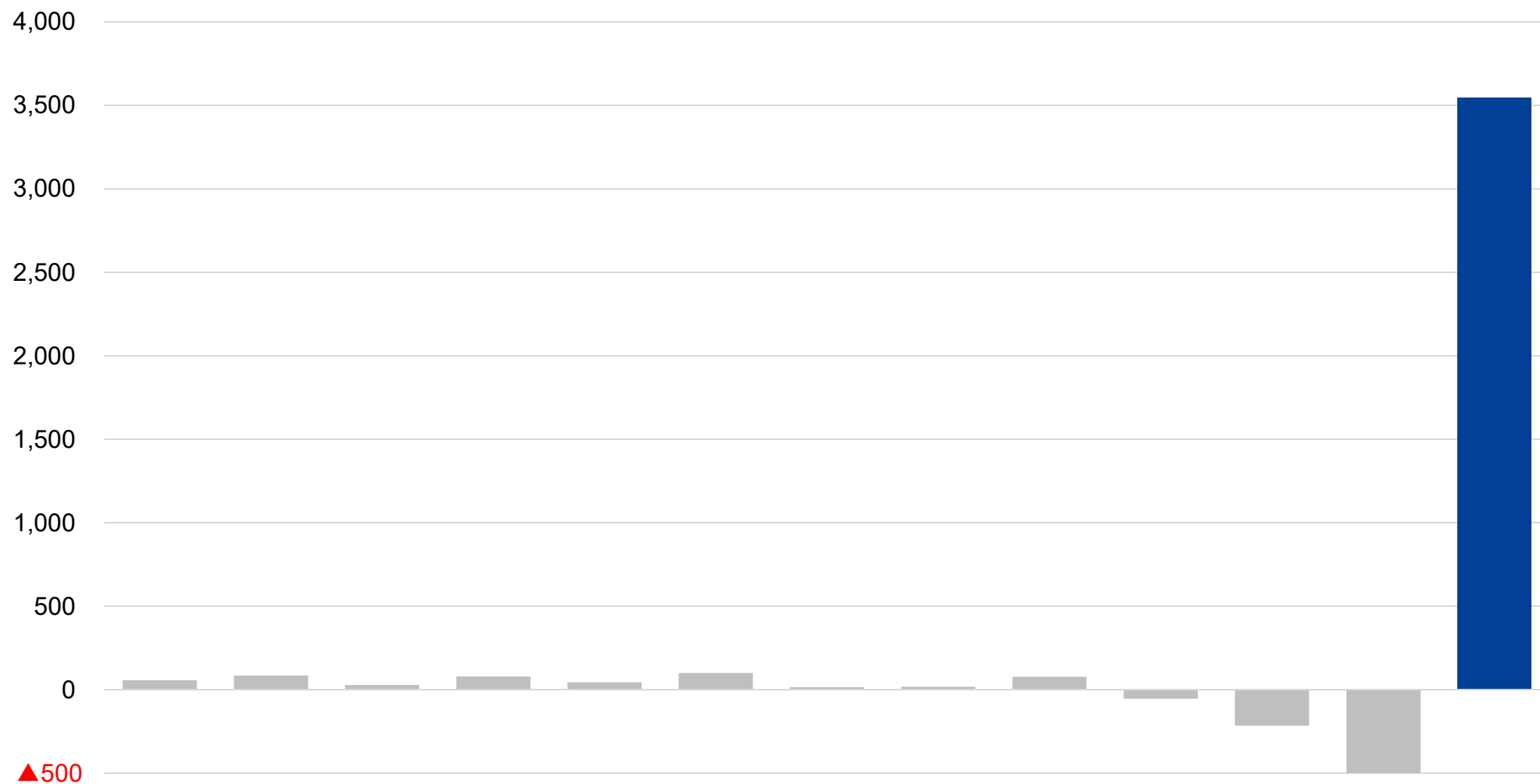
- ・ 累計行使株数： 8,210,000株（発行総数割合18.65%）
- ・ 累計払込金額：10,413,564,000円

# 5 . Appendix

(単位：百万円)



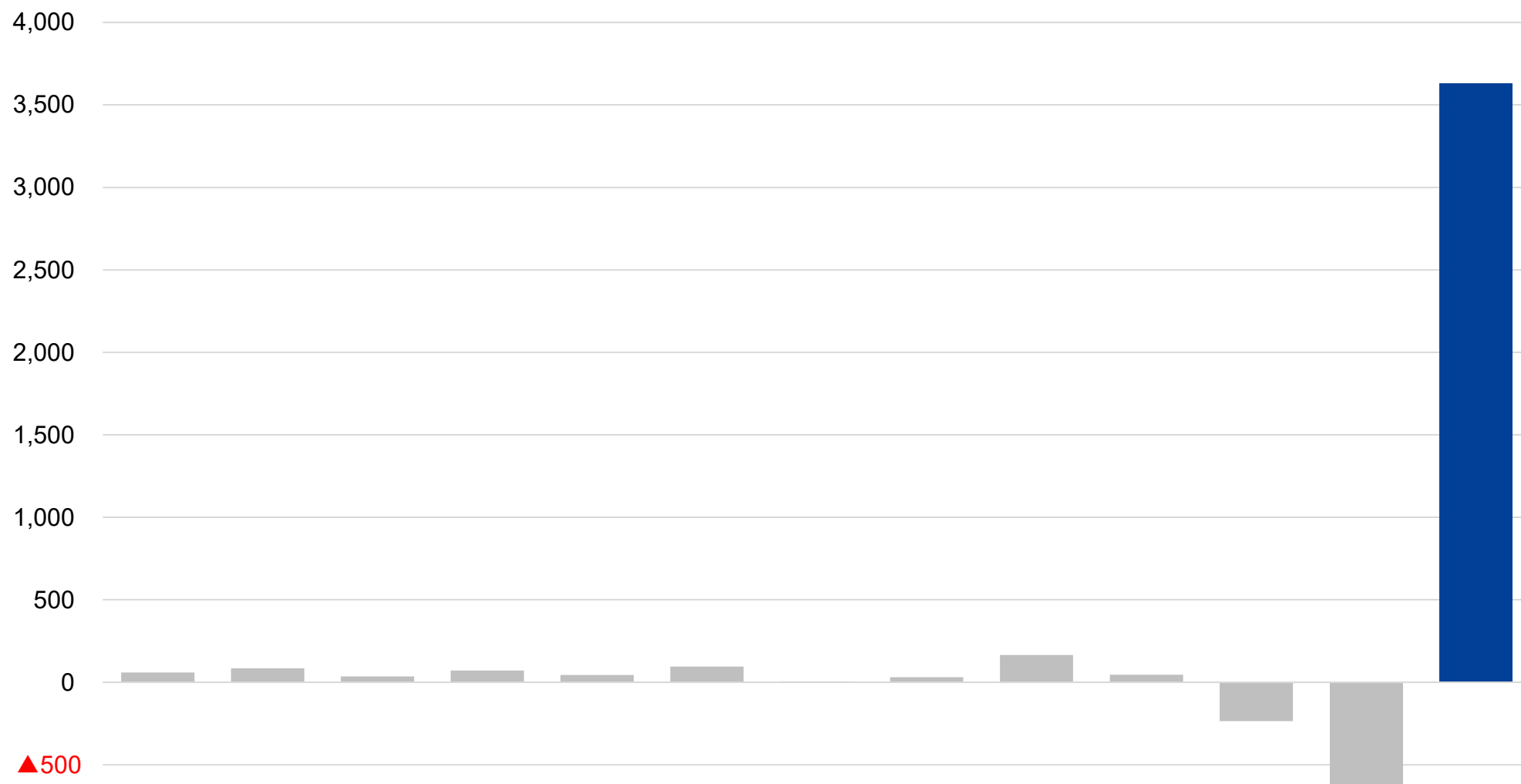
(単位：百万円)



▲1,000

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
営業利益	57	85	28	79	45	100	14	18	77	▲55	▲216	▲496	3,544

(単位：百万円)

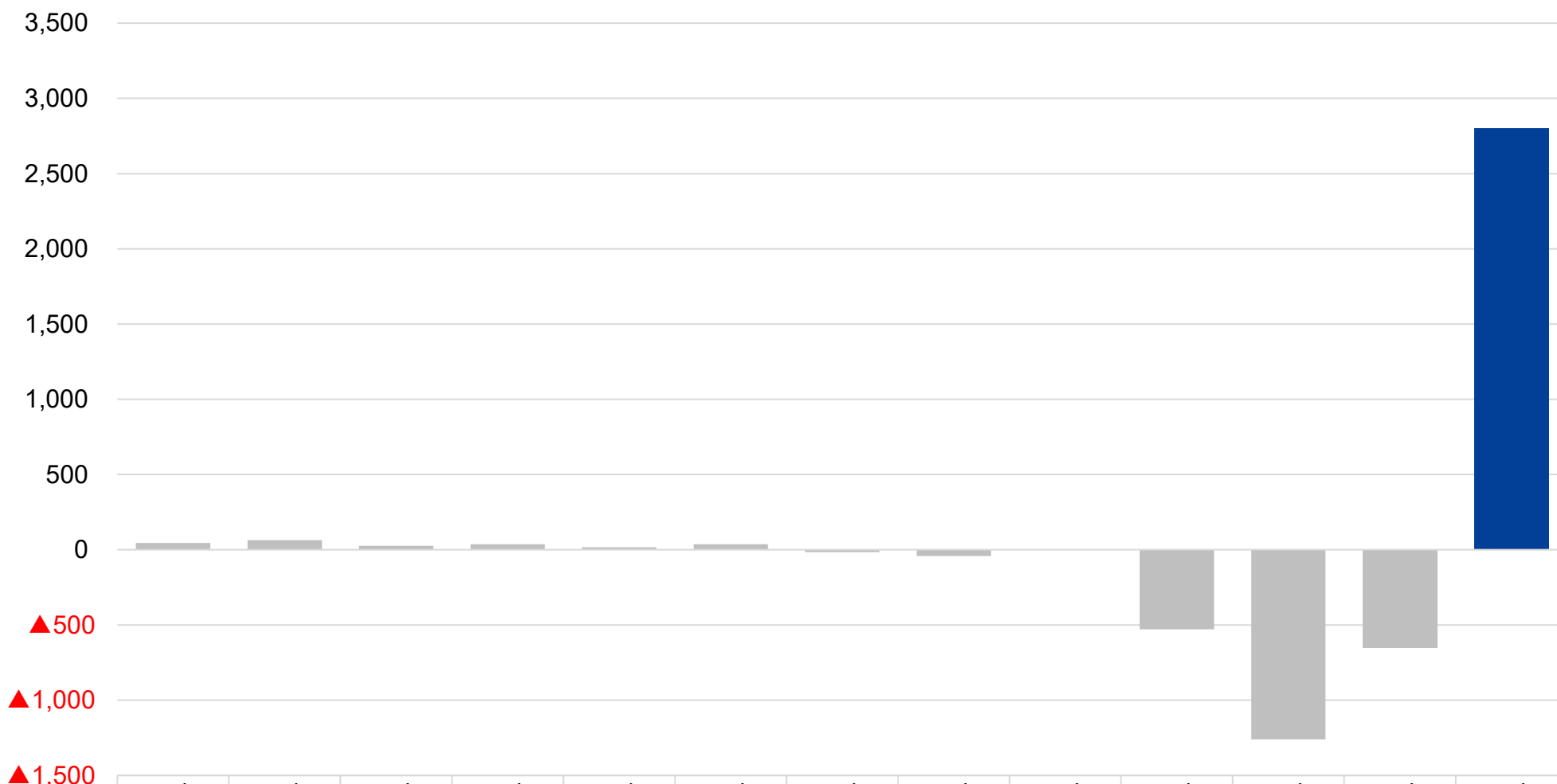


▲500

▲1,000

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
經常利益	60	85	36	71	45	95	5	31	165	46	▲235	▲613	3,627

(単位：百万円)



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
親会社 株主帰属 当期純利益	45	63	26	36	16	37	▲17	▲41	2	▲530	▲1,261	▲654	2,801

# データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp  
050-3649-4858

〒141-0031

東京都品川区西五反田1丁目3-8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

## 注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。